

「落花生」生育情報（第1報）

～ 基本技術を励行して収量増加！ ～

令和5年7月19日

千葉県農林水産部

生産振興課

※本資料は、落花生生産者へ落花生の生育情報を提供するものです。
調査時点での生育状況をまとめたものであり、本年の収量を保証するものではありません。

1 生育状況

1) 発芽状況

5月上旬及び6月上旬に大雨が降ったことから、は種のタイミングや水はけの悪いほ場では発芽不良や発芽揃いが悪くなった所がありました。

2) 開花状況

5月播きでは平年並みで、6月播きでは、6月中旬以降、高温で推移したため、開花日数（は種～開花期）がやや早まっています。

3) 地上部の生育

地上部の生育は、は種時期・ほ場条件・品種によってばらつきがみられます。最長分枝長は平年並みからやや長く、地上部乾物重は6月中旬以降に高温・多照で推移したことから、平年並みからやや重くなっています。

表1 作況調査成績（7月10日調査）※対比は日数、又は平年比

品 種 名	年次	は種日	開花期	開花日数	最長分枝長 (cm)	地上部乾物重 (g/m ²)
千葉半立	本年	5月26日	7月5日	40日	19.9	102.1
	平年	5月26日	7月7日	42日	16.7	83.6
	対比			2日早い	120%	123%
ナカテユタカ	本年	5月17日	6月30日	44日	19.3	203.1
	平年	5月20日	7月2日	42日	17.2	125.9
	対比			2日遅い	113%	162%
Qなっつ (千葉P114号)	本年	6月8日	7月5日	27日	14.0	69.0
	平年	6月4日	7月5日	31日	13.5	60.1
	対比			4日早い	104%	115%
おおまさり ネオ	本年	5月21日	7月2日	42日	16.8	112.5
	平年	5月23日	7月2日	40日	17.1	118.4
	対比			2日遅い	99%	96%

* 本年値は、各調査地点の平均値。「千葉半立」は千葉・印旛・香取地区、「ナカテユタカ」は千葉・長生地区、「Qなっつ」は印旛・長生地区、「おおまさりネオ」は千葉・印旛・君津地区。

* 平年値は、圃場変更がない限りは過去7年間（「千葉半立」、「ナカテユタカ」、「Qなっつ」）の調査データから最大・最小を除く平均。ただし、「おおまさりネオ」は過去2年間の平均値との比較値。

* 対比はラウンド処理をしているため、小数点以下が合わない場合がある。

表2 (参考) 落花生研究室(八街市)の作況(本年の値、7月10日調査)

は種日	品 種 名	開 花 期	最長分枝長 (cm)	地上部乾物重 (g/m ²)
5月19日 (標播)	千葉半立	6月29日(1日早い)	23.6(130%)	129.2(109%)
	ナカテユタカ	6月27日(1日早い)	16.6(101%)	100.5(97%)
	Qなっつ	6月29日(同じ)	17.2(97%)	108.2(101%)
	おおまさりネオ	6月28日(同じ)	18.1(100%)	123.1(106%)
6月8日 (晩播)	千葉半立	7月11日(2日早い)	9.4(89%)	31.3(107%)
	ナカテユタカ	7月8日(3日早い)	10.4(109%)	34.9(126%)
	Qなっつ	7月10日(3日早い)	10.6(111%)	40.0(149%)
	おおまさりネオ	7月10日(2日早い)	10.4(102%)	38.5(112%)

*栽植密度は5,128株/10a。カッコ内は、平成30年~令和4年の平均値対比を示す。

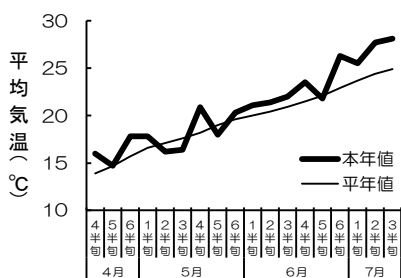


図1 気温の推移(アメダス、佐倉)

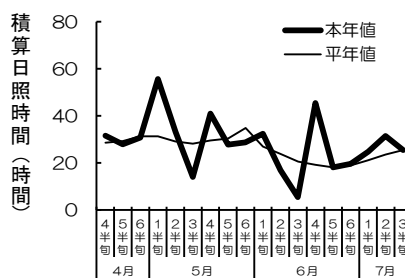


図2 日照時間の推移(アメダス、佐倉)

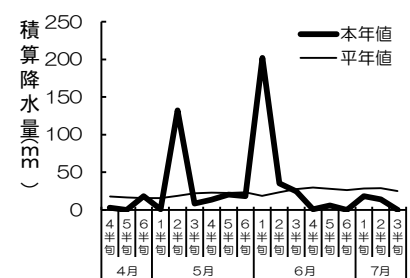


図3 降水量の推移(アメダス、佐倉)

2 これからの管理のポイント

(1) 十分なかん水を行いましょ

7月中旬~8月上旬は、落花生の子房柄が伸長して地中で莢が肥大する時期です。この時期に干ばつ害を受けると、空莢や未熟粒が発生し、収量が大きく減少します。

また、8月上旬以降に干ばつに遭うと、幼芽褐変症が発生しやすくなり、種子に発芽障害が生じます。そのため、以下のポイントを参考にかん水を行いましょ。

- 開花期後20日頃から、週1回を目安にかん水し、採種する場合は、開花期後40日頃にもかん水しましょ。
- 1回のかん水量は、30ミリ以上の「十分なかん水」を心がけ、土壤水分が少ない時ほどかん水量を多くしましょ。
- 土壤が極度に乾燥している場合、一度の降雨だけでは土壤に水分が行き渡らないことがあるため、降雨後も土壤の乾燥具合を見極め、必要に応じてかん水してください。
- 「おおまさりネオ」は、莢の充実期に、多くの水分が必要です。
開花期後20~60日頃にかけて定期的にかん水をしてください。
(詳細別紙)

表3 播種時期ごとのかん水時期の目安

播種日 (月/日)	開花期 (月/日)	かん水 (開花期後20日) (月/日)	かん水 (開花期後40日) (月/日)
5/18	6/28	7/18	8/7
5/27	7/5	7/25	8/14
6/7	7/9	7/29	8/18

*各作況調査ほ及び落花生研究室のほ場（4品種）におけるデータを用いて算出。

*本表をもとに、ほ場ごとの実際の開花期を確認してかん水を実施する。

(参考)

開花期後20日にかん水すると、稔実率が上がる。

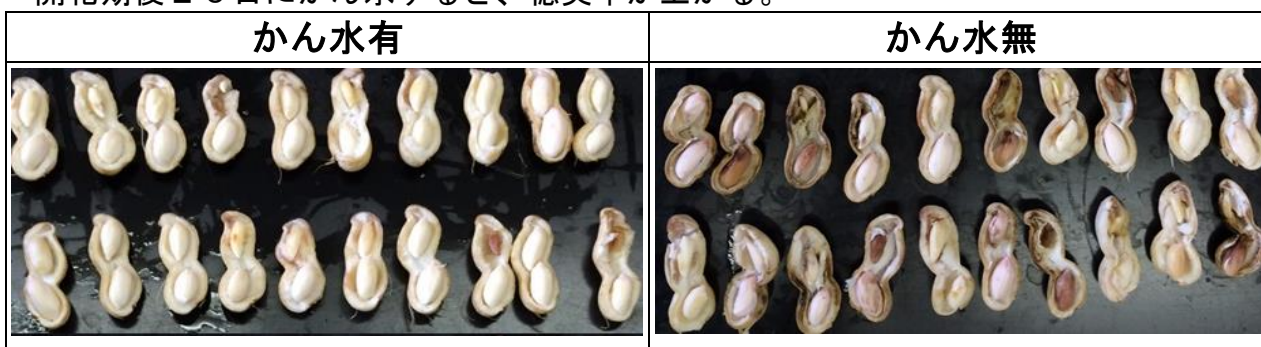


図 開花期後のかん水有無の違いによる子実の状況（平成27年千葉県農林総合研究センター）
（ガラスハウス内枠ほ場での調査結果、開花期後40日の子実の状況）

(2) 病害虫の早期発見・早期防除を徹底しよう！

(※) 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍率、収穫前日数、総使用回数などが定められています。ラベルをよく読んで、適正に使用しましょう。

「茎腐病」 茎の地ぎわ部が腐り、地上部がしおれ、やがて枯死します。発生が認められたときは、ほ場には**トップジンM水和剤**、**ベンレート水和剤**を散布し、被害株はすぐに抜き取り、表土と一緒にほ場から持ち出し処分しましょう。



薬剤名	希釈倍率	使用液量	使用時期	使用回数
トップジンM水和剤	1,500倍	100~300L/10a	収穫7日前まで	4回以内
ベンレート水和剤	2,000倍	100~300L/10a	収穫7日前まで	4回以内

「白絹病」 高温・多湿条件下で発生しやすく、地ぎわ部が侵され白い菌糸が密生し、やがて発育不良となり、枯死します。例年発病するほ場では、**フロンサイド粉剤、アフエットフロアブル**を株元に散布しましょう。発病した場合は、被害株をすぐに抜き取り、表土と一緒にほ場から持ち出します。



薬剤名	使用量（倍率）	使用液量	使用時期	使用回数
フロンサイド粉剤	20kg/10a	—	収穫 45 日前まで	1 回
アフエットフロアブル	2,000 倍	100～300L/10a	収穫前日まで	3 回以内

「褐斑病」 葉に円形の斑点ができる病気で、病状が進行すると落葉します。本病は発生初期の薬剤防除効果が高いため、発生が見られたら早期に**トップジンM水和剤、ベンレート水和剤**等の薬剤を散布しましょう。



薬剤名	希釈倍率	使用液量	使用時期	使用回数
トップジンM水和剤	1,500～2,000 倍	100～300L/10a	収穫 7 日前まで	4 回以内
ベンレート水和剤	2,000～3,000 倍	100～300L/10a	収穫 7 日前まで	4 回以内

茎腐病・白絹病は、連作を避け、他作物と輪作して、被害の軽減に努めましょう！

「おおまさりネオ」は、かん水を十分に！

○子実の充実には水分が必要

「おおまさりネオ」では、莢の充実期に「おおまさり」や「千葉半立」よりも多くの水分が必要です。土壌が乾燥すると、子実の充実不良が発生しやすくなります。



○莢の肥大・充実期に定期的なかん水を

開花期後、20～60日頃が莢の肥大・充実期です。この時期に、十分な水分があると子実もよく充実します。ほ場の乾き具合を見ながら、10日に1回程度十分な量のかん水をしてください。

* 開花期：全株のうち半分の株が開花した日



開花期

収穫期

↑ ↑ ↑ ↑ ↑
20日 30日 40日 50日 60日

肥大・充実期

○かん水量は30～40mm

1回のかん水量の目安は30～40mmです。土壌が乾燥している時ほど、かん水量を多くしましょう。

* かん水量の測定：かん水する畑に桶を置き、溜まった水の深さでおおよそのかん水量を測定できます。